

企業名： ジャパンベストレスキューシステム

レポート名： 統合報告書 2022

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

ジャパンベストレスキューシステムの企業理念としては困っている人を助けるというものでもまたいつも暮らしに寄り添い、安心できるベストな仕組みやサービスを創るということも目標にしている。正しくあれ、優しくあれ、挑戦者であれの3つを主軸の価値観としている。経営理念に関しては多様性のある人材を最大限に生かすため経営のベクトルを一つの大きな方向にまとめていくような企業づくり・組織づくりを目標としている。この一歩として経営理念の再定義を行うも困っている人を助けるという芯は全く揺るがず、新しいサービスや商品の開発にしる、アライアンス先の選定にしる、さらには、社員個々の現場での取り組みにしる、これまで以上にブレないものになっていくだろう。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

ジャパンベストレスキューシステムの競争優位性はこの統合報告書から読み取ることができる。様々な生活トラブルに迅速に対応するためのサービスや商品を提供することであるが、そうした「困りごと」が起こってから接点を作る「駆けつけ事業」では収益の安定を欠くため、「困りごと」が起こる前にサービスに加入していただくサブスクビジネスモデルの展開を強化してきており提携先の可能性を大幅に拡げることができている。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

十分ジャパンベストレスキューシステムの持続性はある。実際ジャパンベストレスキューシステムの2021年9月期において会員数が爆発的に伸び、新たな成長フェーズに入ってきている。また第二の柱である保険事業も保険商品の積極的な開発を通じて、被保険者の数を急速に伸ばしている。困っている人を助けるという精神のもとが「困っている」企業とのアライアンスが増えてきている。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

この行為も悔いに関してはあまり賛同できない。この会社ならではの人材育成や人材マネジメントに関する記述があまりみられなかった。自身の人的資本の価値向上を達成できると思うかという問いに対する判断材料が少ないと感じた。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

ジャパンベストレスキューシステムの困っている人を助けるという基本理念が何度も強調されブレのない経営が良く伝わった。環境や社会に対する動きが具体的に示されておりとてもよかった。一方でジャパンベストレスキューシステムならではの経験や人材育成についての具体的に示すべきである。